



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月1日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2222 URL <https://www.kotobukispirits.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部部長 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	16,306	△54.3	△2,307	—	△302	—	△174	—
2020年3月期第3四半期	35,674	20.5	6,190	43.4	6,242	43.5	3,970	39.7

(注)包括利益 2021年3月期第3四半期 △187百万円 (—%) 2020年3月期第3四半期 3,962百万円 (40.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△5.60	—
2020年3月期第3四半期	127.59	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	25,009	19,732	78.9	634.07
2020年3月期	26,814	21,164	78.9	680.11

(参考)自己資本 2021年3月期第3四半期 19,732百万円 2020年3月期 21,164百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,140	△48.8	△3,400	—	△1,370	—	△900	—	△28.92

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	31,121,520 株	2020年3月期	31,121,520 株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	2,027 株	2020年3月期	1,905 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	31,119,548 株	2020年3月期3Q	31,119,644 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(四半期連結貸借対照表関係)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、期間前半は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、インバウンド需要の消失はもとより、昨年4月の政府による全都道府県を対象にした「緊急事態宣言」の発令を受け、消費活動は急速に縮小し、かつて経験したことのない深刻な事態となりました。期間後半は、緊急事態宣言解除による経済活動の再開や政府による「Go Toトラベルキャンペーン事業」等の効果もあり回復の兆しが見られたものの、依然として感染は、収束と拡大を繰り返しており、引き続き予断を許さない状況下で推移いたしております。

このような環境下、当社グループは、前年度終盤より大幅な事業活動の縮小を余儀なくされている状況を鑑み、新型コロナウイルス感染拡大の収束までの期間を「緊急事態フェーズ」と捉え、従業員の雇用維持を第一に、感染予防策の徹底、役員報酬及び賞与の減額などによる人件費の抑制並びにコスト削減、設備投資の抑制及び当座貸越枠の増額による資金流動性の確保、在庫の圧縮などに取り組んでまいりました。

また、コロナ禍の施策として、売場改良及び自家需要対策などによるブランド訴求の強化、通信販売の強化、収束後を見据えた新ブランド及び新商品開発の推進などに取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期累計期間の売上高は16,306百万円（前年同期比54.3%減）、営業損失は2,307百万円（前年同期は営業利益6,190百万円）、経常損失は302百万円（前年同期は経常利益6,242百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は174百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益3,970百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

① シュクレイ

首都圏がメイン商圏のシュクレイは、郊外店舗や催事での自家需要対策の強化などに注力いたしました。また、通信販売の強化、キャンペーン展開による販促強化、売場改良などによるブランド訴求力の向上に努めました。出退店では、昨年8月に東京駅に開業した商業施設に新ブランド「COCORIS（ココリス）」を出店するなど計6店の出店及び3店の退店を行いました。その結果、売上高は4,968百万円（前年同期比61.0%減）、営業損失は894百万円（前年同期比は営業利益1,986百万円）となりました。

② ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、通信販売において、会員向けカタログの充実、「楽天市場」などECモール対策の強化、イベント商戦対策などに注力いたしました。また、直営店及び催事におきましても、主力商品「ドゥブルフロマージュ」を中心に自家需要対策の強化に努めました。新規出店では、昨年8月に東京駅に開業した商業施設に新ブランド「PISTA&TOKYO（ピスタ アンド トーキョー）」を出店するなど首都圏において計3店の出店を行いました。その結果、売上高は5,502百万円（前年同期比41.7%減）、営業損失は398百万円（前年同期は営業利益1,118百万円）となりました。

③ 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、感染収束後に備えて新商品開発の強化に注力するとともに、ドラッグストア向けなど新たな販路開拓や通信販売の強化などに注力いたしました。その結果、売上高は4,016百万円（前年同期比55.2%減）、営業損失は398百万円（前年同期は営業利益1,447百万円）となりました。

④ 販売子会社

販売子会社は、感染収束後に備えて新商品開発の強化に注力するとともに、売場シェア拡大に向けた提案営業の強化などに注力いたしました。その結果、売上高は1,642百万円（前年同期比67.6%減）、営業損失は401百万円（前年同期は営業利益568百万円）となりました。

⑤ 九十九島グループ

九十九島グループは、感染収束後に備えて新商品開発の強化に注力するとともに、フレンチトースト専門店「アイボリッシュ」でのテイクアウト及びデリバリーなどの対策強化、直営店での自家消費対策の強化などに努めました。その結果、売上高は1,578百万円（前年同期比56.9%減）、営業損失は407百万円（前年同期は営業利益465百万円）となりました。

⑥ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾及び香港）における菓子事業が含まれております。売上高は372百万円（前年同期比41.7%減）となり、営業利益は2百万円（前年同期は営業損失112百万円）となりました。なお、香港事業は昨年2月に事業を閉鎖し、清算手続き中であります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、25,009百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,804百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少(2,965百万円)、受取手形及び売掛金の増加(1,154百万円)などの要因によるものです。

負債は5,277百万円となり、前連結会計年度末に比べ371百万円減少いたしました。主な要因は、未払法人税等の減少(882百万円)、賞与引当金の減少(416百万円)、流動負債のその他の減少(213百万円)、長期借入金の増加(542百万円)、支払手形及び買掛金の増加(499百万円)などの要因によるものです。

純資産は19,732百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,432百万円減少いたしました。主な要因は、配当金の支払いによる減少(1,244百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による減少(174百万円)、などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と同じ78.9%となり、1株当たり純資産は634円07銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、前回公表数字(2020年11月4日付「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」)から変更いたしておりません。

なお、公表の業績予想は、新型コロナウイルス感染症の再拡大による再度の緊急事態宣言の発令は想定いたしておりません。今後の感染状況の推移や消費動向等によって、業績は大きく変動する可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,291,162	5,325,437
受取手形及び売掛金	2,761,061	3,915,848
商品及び製品	1,439,981	1,202,206
仕掛品	40,902	95,089
原材料及び貯蔵品	597,887	620,735
その他	313,941	866,461
貸倒引当金	△745	△638
流動資産合計	13,444,189	12,025,138
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,653,471	4,454,319
機械装置及び運搬具(純額)	2,805,610	2,568,867
工具、器具及び備品(純額)	432,168	395,399
土地	2,887,139	2,887,139
リース資産(純額)	735	11,198
建設仮勘定	14,899	—
有形固定資産合計	10,794,022	10,316,922
無形固定資産	154,243	158,440
投資その他の資産		
その他	2,432,994	2,524,538
貸倒引当金	△11,235	△15,515
投資その他の資産合計	2,421,759	2,509,023
固定資産合計	13,370,024	12,984,385
資産合計	26,814,213	25,009,523
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	635,316	1,134,695
1年内返済予定の長期借入金	180,017	149,393
未払金	866,114	898,753
未払法人税等	900,009	17,227
賞与引当金	606,358	189,660
ポイント引当金	8,052	16,992
その他	650,382	436,770
流動負債合計	3,846,248	2,843,490
固定負債		
長期借入金	—	542,960
退職給付に係る負債	1,616,529	1,692,991
その他	186,635	198,052
固定負債合計	1,803,164	2,434,003
負債合計	5,649,412	5,277,493

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	18,655,835	17,236,848
自己株式	△2,376	△2,955
株主資本合計	21,194,420	19,774,854
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3,221	△4,439
為替換算調整勘定	△15,157	△31,989
退職給付に係る調整累計額	△11,241	△6,396
その他の包括利益累計額合計	△29,619	△42,824
純資産合計	21,164,801	19,732,030
負債純資産合計	26,814,213	25,009,523

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	35,674,966	16,306,411
売上原価	14,468,817	8,361,106
売上総利益	21,206,149	7,945,305
販売費及び一般管理費	15,015,270	10,252,568
営業利益又は営業損失(△)	6,190,879	△2,307,263
営業外収益		
受取利息	69	54
受取配当金	4,913	4,003
受取地代家賃	15,479	33,975
助成金収入	—	1,869,592
その他	44,659	106,021
営業外収益合計	65,120	2,013,645
営業外費用		
支払利息	1,278	721
その他	12,582	8,362
営業外費用合計	13,860	9,083
経常利益又は経常損失(△)	6,242,139	△302,701
特別利益		
固定資産売却益	116	7,782
特別利益合計	116	7,782
特別損失		
固定資産売却損	289	5
固定資産除却損	13,846	9,848
減損損失	132,193	7,143
特別損失合計	146,328	16,996
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	6,095,927	△311,915
法人税等	2,125,454	△137,713
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,970,473	△174,202
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	3,970,473	△174,202

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,970,473	△174,202
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,736	△1,218
為替換算調整勘定	△5,375	△16,832
退職給付に係る調整額	5,097	4,845
その他の包括利益合計	△8,014	△13,205
四半期包括利益	3,962,459	△187,407
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,962,459	△187,407

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

(当座貸越契約)

当社及び連結子会社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当第3四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
当座貸越極度額の総額	3,250,000千円	7,800,000千円
借入実行残高	—	—
差引額	3,250,000千円	7,800,000千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイ シイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島 グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	12,500,951	9,124,725	6,179,823	5,058,108	2,172,559	35,036,166
セグメント間の内部売上高又は振替高	251,080	319,690	2,776,277	14,844	1,492,300	4,854,191
計	12,752,031	9,444,415	8,956,100	5,072,952	3,664,859	39,890,357
セグメント利益 (△は損失)	1,986,004	1,118,928	1,447,985	568,407	465,815	5,587,139

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	638,800	35,674,966	—	35,674,966
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	4,854,191	△4,854,191	—
計	638,800	40,529,157	△4,854,191	35,674,966
セグメント利益 (△は損失)	△112,381	5,474,758	716,121	6,190,879

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾及び香港)における菓子事業が含まれております。

なお、第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度に連結の範囲に含めましたHoney Sucrey Limited(香港)が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額716,121千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額1,214,289千円、セグメント間取引消去額21,191千円、たな卸資産の調整額△16,709千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△502,650千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シュクレイ」及び「ケイシイシイ」並びに「その他」の資産グループについて減損損失を計上いたしております。

なお、当該減損損失の当第3四半期連結累計期間における計上額は「シュクレイ」38,770千円及び「ケイシイシイ」46,897千円並びに「その他」46,526千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイ シイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島 グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	4,835,863	5,359,021	3,019,566	1,624,249	1,095,515	15,934,214
セグメント間の内部売上高又は振替高	132,736	143,272	996,656	18,298	483,383	1,774,345
計	4,968,599	5,502,293	4,016,222	1,642,547	1,578,898	17,708,559
セグメント利益 (△は損失)	△894,373	△398,206	△398,357	△401,345	△407,599	△2,499,880

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	372,197	16,306,411	—	16,306,411
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,774,345	△1,774,345	—
計	372,197	18,080,756	△1,774,345	16,306,411
セグメント利益 (△は損失)	2,473	△2,497,407	190,144	△2,307,263

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾及び香港)における菓子事業が含まれております。

なお、「その他」のセグメントに含まれるHoney Sucrey Limitedは2020年1月開催の当社取締役会において清算計画を決議しており、同社は現在清算手続中であります。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額190,144千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額576,143千円、セグメント間取引消去額7,437千円、たな卸資産の調整額1,504千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△394,940千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シュクレイ」セグメントにおいて、店舗の閉店が決定されたことにより、回収可能性が認められなくなった事業資産に係る減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は7,143千円であります。